



春日小だより

令和6年6月28日
練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子
学校通信 7月号

思い通りにならないから…

副校長 市村 大

「君には無理。」この一言は、私が中学生の時、入りたかった部活に断られたときに言われた言葉です。入部するにあたり、基礎的な体力などを測られる入部試験がありました。当時の私は、かなりの肥満体型でしたから、どのテストにもほとんど対応できませんでした。それでも、普通ならば入れてくれると思うのですが…。今ならば大問題になりかねない言葉です。仕方なくあきらめて、他の部活に入部の意思を示しましたが、今度は体型を見ただけで「一昨日締め切ったから」と言われました。まあ、当時の私のことを思えば、けがのリスクがあまりに大きいと思われたのでしょう。

2つの部活に断られ、どうしようかとフラフラしていると、目の前にフランススコ＝ザビエルを彷彿とさせる先生がいらして、私に声を掛けました。「君、歴史は好きか？」嫌いではなかったので、「興味はあります」と答えると、そのまま入部が決まりました、地歴研究部に。今思えば、合宿で和歌山・神戸・広島に行けたことは、大きな財産です。

高校進学後。今さら体育系の部活には入りたくなかったし、地歴研究部は休部状態で、無理して復興させる気もなかったもので、再びフラフラしていました。ある日の朝、学校敷地内の雑木林から、両手にたくさんの雑草を抱えた、ひとときわ小柄な女性の先生が出てくるのを目撃しました。あまりの異様さに、その先生の授業後に「何をしていたのですか？」と声を掛けると、「授業で観察したい植物の繁殖状況を確認していた」と教えていただきました。なるほどと納得して終えようとする、今度は「君、暇？生物部入らない？」というスカウト。その流れで生物部に入部しました。地歴研究部からの180度転換です。合宿で三浦半島を歩いて横断したことや、東京湾の三番瀬で実験に使う貝を採取したこと、手の細菌を培養させて殺菌実験を行ったことなど、貴重な経験でした。

この中学・高校での経験が、自分を教職の道に導きました。大学進学を考えるときに、なんとなくこの先生たちのことが頭に浮かび、「教えるって、悪くない」と思い、教職を志します。当時、私が唯一得意だったのが地歴研究部で鍛えられた歴史です。そこから社会科の教員を目指しました。しかし、いろいろあって壁にぶち当たった頃、たまたま小学校の水泳指導のバイトで行っていた学校の先生から「君は小学校に向いているよ」と言われてその道へ。生物部で幅広く経験したことが、まさかの形で結びつきました。

もし、私が最初に断られた部活に入っていたら、どんな人生になったのでしょうか。思い通りにならなかったことがきっかけで、この道につながるとは。断られた直後の私に声を掛けてあげたいです。「思い通りにならないから、新しい可能性も開くのだぞ」と。

ご挨拶代わりに、私の思い出を語りました。春日小学校での時間も、自分の糧にしていけるように頑張ります。保護者、地域の皆様、今後ともよろしく願いいたします。